

# 平成21年度 病害虫発生予察情報

## 発生予報第7号（8月）

平成21年8月5日  
島 根 県

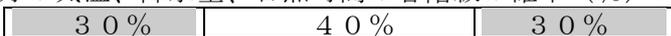
### 予報の概要

| 区分   | 農作物名      | 病害虫名     | 予想発生量                 |          |
|------|-----------|----------|-----------------------|----------|
| 普通作物 | イネ        | 穂いもち     | 平年並<br>(葉いもち既発地:やや多い) |          |
|      |           | 紋枯病      | やや少ない                 |          |
|      |           | 白葉枯病     | 平年並                   |          |
|      |           | ツマグロヨコバイ | 平年並                   |          |
|      |           | セジロウンカ   | 平年並                   |          |
|      |           | トビイロウンカ  | 平年並                   |          |
|      |           | コブノメイガ   | 平年並                   |          |
|      |           | 斑点米カメムシ類 | やや多い                  |          |
|      |           | ハスモンヨトウ  | やや多い                  |          |
|      |           | 黒斑病      | 平年並                   |          |
|      |           | シンクイムシ類  | やや多い                  |          |
|      |           | ハダニ類     | やや多い                  |          |
|      |           | カメムシ類    | やや少ない                 |          |
| 果樹   | ダイズ<br>ナシ | うどんこ病    | 平年並～やや多い              |          |
|      |           | カキミガ     | 平年並                   |          |
|      |           | カメムシ類    | やや少ない                 |          |
|      |           | カキ       | うどんこ病                 | 平年並～やや多い |
|      |           |          | カキミガ                  | 平年並      |
|      |           | カメムシ類    | やや少ない                 |          |

中国地方1か月予報（8月1日～8月31日・広島地方気象台7月31日発表）

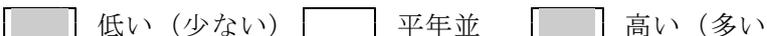
<予想される向こう1か月の天候>

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）>

気温 

降水量 

日照時間 



### 1) イネ

#### (1) 穂いもち

予報内容

発生地方

全域

発生量

平年並（葉いもち既発地ではやや多い）

予報の根拠

① 7月第5半旬に行った定点調査（70圃場）における葉いもちの発生量は発生圃場率8.6%（平年40.7%）、発病株率3.1%（平年24.3%）と、平年に比べてやや少ない。

また、上記圃場を含めた県内360圃場における葉いもちの発生状況は、一部地域では発病程度のやや高い圃場が散見されるものの、全般の発生量は発病株率1.8%と前年度に比べてやや少ない（次頁表参照）。

② 7月第5半旬以降、BLASTAMによる感染好適日が高頻度に出現しており、6半旬にはのべ23日（平年2.2日）確認された。これは、穂いもちが激発したH5年の出現のべ日数7日も大きく上回り、過去10年で最も多い出現頻度である。

葉いもち既発地では潜伏感染が見込まれるとともに、病勢が鈍化しないことから、穂いもちの伝染源となる胞子の飛散が当分の間続くことが予想される。

③ 8月の気象は、葉いもち既発地における感染を抑制する要因とはならない。

表 近年の葉いもち発生状況(7月下旬調査)と穂いもちの発生概況

| 年次   | 調査場所 | 調査圃場数 | 発生圃場数 | 発生圃場率(%) | 発病株率(%) | 発病度  | 穂いもち概況 | 穂いもち被害面積率(%) |
|------|------|-------|-------|----------|---------|------|--------|--------------|
| H21年 | 県東部  | 230   | 27    | 11.7     | 2.0     | 0.5  |        |              |
|      | 県西部  | 130   | 7     | 5.4      | 1.3     | 0.4  |        |              |
|      | 県全体  | 360   | 34    | 9.4      | 1.8     | 0.5  |        |              |
| H20  | 県全体  | 360   | 56    | 15.6     | 5.2     | 1.4  | やや少    | 2.0          |
| H19  | 県全体  | 360   | 59    | 16.4     | 5.2     | 1.3  | やや少    | 1.7          |
| H18  | 県全体  | 360   | 23    | 6.4      | 1.7     | 0.5  | 少      | 0.2          |
| H17  | 県全体  | 360   | 12    | 3.3      | 0.9     | 0.2  | 少      | 0.1          |
| H16  | 県全体  | 360   | 252   | 70.0     | 46.5    | 13.5 | やや多    | 10.9         |
| H15  | 県全体  | 355   | 175   | 49.3     | 23.5    | 6.84 | 多      | 36.0         |

表 BLASTAMによる葉いもちの感染好適日の出現状況

|      | 隠岐 | 海士 | 鹿島 | 松江 | 出雲 | 大田 | 掛合 | 奥出雲 | 飯南 | 川本 | 浜田 | 邑南 | 弥栄 | 益田 | 津和野 | 吉賀 |
|------|----|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|----|----|----|----|-----|----|
| 7/20 | -  | -  | -  | -  | -  | -  | -  | -   | -  | -  | -  | -  | -  | -  | -   | ●  |
| 21   | -  | -  | -  | -  | -  | △  | △  | ●   | -  | -  | -  | -  | -  | -  | -   | -  |
| 22   | -  | -  | -  | -  | -  | -  | △  | -   | ●  | △  | -  | -  | -  | -  | △   | ●  |
| 23   | -  | -  | -  | -  | -  | -  | -  | -   | -  | -  | -  | -  | -  | -  | -   | -  |
| 24   | -  | -  | -  | -  | -  | -  | -  | -   | -  | -  | -  | -  | -  | -  | -   | -  |
| 25   | -  | -  | ●  | ●  | ●  | -  | -  | ●   | -  | -  | -  | -  | -  | -  | -   | -  |
| 26   | -  | -  | -  | -  | -  | -  | ●  | ●   | ●  | -  | ●  | ●  | -  | -  | -   | -  |
| 27   | -  | -  | -  | -  | ●  | ●  | -  | -   | -  | ●  | -  | △  | -  | -  | -   | -  |
| 28   | -  | -  | -  | ●  | -  | -  | ●  | -   | -  | -  | -  | -  | -  | -  | -   | -  |
| 29   | -  | -  | ●  | -  | △  | ●  | ●  | -   | ●  | △  | -  | ●  | -  | -  | ●   | -  |
| 30   | -  | -  | -  | -  | ●  | -  | ●  | ●   | -  | -  | -  | ●  | -  | ●  | ●   | -  |
| 31   | -  | -  | -  | -  | -  | -  | ●  | -   | -  | -  | -  | -  | -  | -  | -   | -  |
| 8/1  | -  | -  | ●  | -  | -  | -  | ●  | -   | ●  | -  | -  | ●  | -  | -  | -   | -  |
| 2    | -  | -  | -  | -  | -  | -  | -  | △   | ●  | -  | -  | -  | -  | -  | -   | -  |
| 3    | -  | -  | -  | -  | -  | -  | -  | -   | -  | -  | -  | -  | -  | -  | -   | -  |
| 4    | -  | ●  | ●  | -  | -  | ●  | ●  | -   | ●  | ●  | -  | -  | ●  | -  | -   | -  |

●：感染好適日 △：感染準好適日 -：出現せず

(2) 紋枯病

予報内容

発生地方

全域

発生量

やや少ない

予報の根拠

① 7月第5半旬の定点調査における発生圃場率は27.1% (平年41.7%)、発病株率は2.5% (平年7.7%)で、全般の発生量は平年に比べてやや少ない。

② 8月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) 白葉枯病

予報内容

発生地方

常習発生地

発生量

平年並

予報の根拠

① 全般の発生量はほぼ平年並みである。

② 8月の気象は本病の発生を助長する要因とはならない。

(4) ツマグロヨコバイ

予報内容

発生地方

県下全域

発生量

平年並

予報の根拠

① 予察灯での誘殺数は平年に比べて少ない。

② 7月下旬の巡回調査では、捕獲数は30.0頭 (平年26.1頭/50株)、発生圃場率は57.1% (平年70.1%)で発生量は平年並みである。

③ 8月の気象は本種の発生に助長的である。

(5) セジロウンカ

予報内容  
発生地方 県下全域  
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 予察灯への初飛来は、出雲市で6月22日に認められた。7月下旬までの誘殺数は平年並みである。
- ② 7月下旬の巡回調査では、捕獲数は35.6頭（平年60.6頭/50株）、発生圃場率は65.1%（平年80.2%）で発生量は平年並みである。
- ③ 8月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

(6) トビイロウンカ

予報内容  
発生地方 県下全域  
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 予察灯の7月下旬までの誘殺数は平年に比べてやや少ない。
- ② 7月下旬の巡回調査では、捕獲数は0.2頭（平年0.1頭/50株）、発生圃場率は8.6%（平年3.3%）で発生量は平年並みである。
- ③ 8月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

(7) コブノメイガ

予報内容  
発生地方 県下全域  
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 予察灯の7月下旬までの誘殺数は平年に比べてやや少ない。
- ② 7月下旬の巡回調査では被害株率3.5%（平年3.6%）、発生圃場率は14.3%（平年19.7%）で発生量は平年並みである。
- ③ 8月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

(8) 斑点米カメムシ類

予報内容  
発生地方 県下全域  
発生量 やや多い

予報の根拠

- ① 7月31～8月4日に出穂している圃場ですくい取り調査を行ったところ、発生圃場率は83.3%（平年：74.0%）、平均頭数は4.6頭/20回振り（平年：7.6頭）で平年並みである。一部圃場でホソハリカメムシが多い。
- ② 予察灯でのアカスジカスミカメの誘引数は106頭（7月第6半旬まで累積、平年139.7頭）で平年並みである。
- ③ 8月の気象は本種の発生に助長的である。

2) ダイズ

(1) ハスモンヨトウ

予報内容  
発生地方 全域  
発生量 やや多い

予報の根拠

- ① フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の誘殺累積数は出雲市で平年比132.0%、益田市で127.9%とやや多い。
- ② 7月下旬のダイズ圃場調査では発生を確認していない。
- ③ 8月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容  
発生地方 ナシ（二十世紀）栽培地帯  
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 7月30日の巡回調査では、発病葉率は16.0%（平年14.4%）であり、平年並みである。
- ② 8月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) シンクイムシ類

予報内容  
発生地方 ナシ栽培地帯  
発生時期 平年並  
発生量 やや多い

予報の根拠

- ① 予察圃場（安来市・出雲市）のフェロモントラップでのナシヒメシクイ雄成虫の誘殺盛期は平年並みで誘殺数はやや多い。
- ② 8月の気象は発生を特に抑制する要因とはならない。

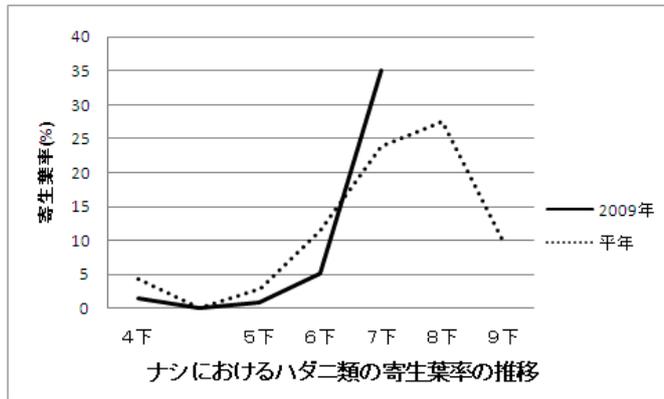
(3) ハダニ類

予報内容

発生地方 ナシ栽培地帯  
発生量 やや多い

予報の根拠

- ① 7月下旬の巡回調査では、寄生葉率は35.0%（平年値21.6%）と平年並みであるが、寄生虫数は116.9頭/50葉（平年70.9頭/50葉）とやや多い。
- ② 8月の気象は発生を特に抑制する要因とはならない。
- ③ クワオオハダニが多く、カンザワハダニと混発している圃場も多く認められるため薬剤の種類に注意が必要である。



(4) カメムシ類

予報内容

発生地方 ナシ栽培地帯  
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 予察圃場（出雲市）の7月までの予察灯でのカメムシ類の誘殺数は82頭（平年1,097.7頭）と少ない。
- ② 8月の気象はカメムシ類の発生にやや助長的である。

2) カキ

(1) うどんこ病

予報内容

発生地方 カキ栽培地帯  
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 7月29日の巡回調査では、発生量は平年と比べてやや多い。一部で多発園も認められる。
- ② 8月の気象は、本病の発生にやや抑制的である。

(2) カキミガ（第2世代）

予報内容

発生地方 カキ栽培地帯  
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 第1世代幼虫による芽および果実の被害は平年並みであった。
- ② 8月の気象は発生を特に助長する要因とはならない。

(3) カメムシ類

予報内容

発生地方 カキ栽培地帯  
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 予察圃場（出雲市）の7月までの予察灯でのカメムシ類の誘殺数は少ない。
- ② 7月下旬の巡回調査ではカメムシの被害果を確認していない。
- ③ 8月の気象はカメムシ類の発生にやや助長的である。

**農薬の安全使用の徹底を！**

- ・ 農薬の使用基準（適用作物、使用量又は濃度、使用時期、総使用回数）を遵守する。
- ・ 防除履歴（使用日時と場所、作物名、農薬の種類と量）を記帳する。
- ・ 農薬散布時には周辺作物に飛散（ドリフト）しないように注意する。
- ・ 水田で使用する農薬の止水期間を守る。
- ・ 有効期限切れ農薬は使用しない。
- ・ 散布後は散布器具の洗浄を徹底し、空き容器は正しく処理する。
- ・ 病害虫の発生状況を把握し、必要最小限の農薬使用に努める。

○病害虫防除所のホームページでは発生予察情報の他、各種情報を掲載しています。

- ①葉いもち情報
- ②フジコナカイガラムシ防除適期の予想
- ③技術情報第2号イネ縞葉枯病の発生
- ④ヒメトビウンカの発生経過と防除対策

島根県病害虫防除所

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

ホームページ <http://www.jppn.ne.jp/shimane/>